

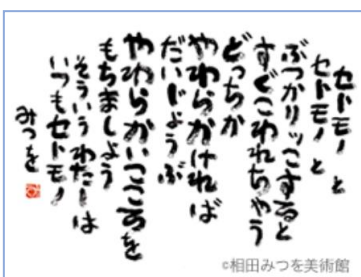
飛翔



萬歳小学校
5・6年 学級通信
H29. 11. 22
No. 31

「よいよく生きる」

萬歳小学校では、来年度から教科化する道徳について4月より校内研究を行っています。先週、研究授業があり、「考えや意見が違うときに、分かり合うためにはどうしたらいいか考えよう」というめあてで授業を行いました。「自分勝手にしない。」「まず相手の話をちゃんと聞いてみる。そして、怒ったりせずに落ち着いて自分の気持ちを伝える。」「相手の悪いところばかりではなくて、良いところを見つける。」「相手の立場に立って、相手の気持ちを考える。」などなど…他にも子ども達なりにたくさんの方をを考えていました。振り返りでは、「人を責めたりするんじゃないで、みんなで協力することが大切。私はたぶんできる!」「たまに人の気持ちと自分の気持ちがすれちがったりするけど、そういうときは相手の気持ちを聞いてみると、自分の気持ちが変わってくると思うので、それが一番（実践）できそうです。これからもっと人のいいところに目を向けたいです。」などといった感想が見られました。



最後に、「セトモノ」という詩（左参照）が使用させているCMを見ました。ちなみに、この授業に関連してとったアンケート（進級当初に比べて、今のあなたの心の広さはどれくらい? という項目）では、全員が4月当初に比べて、広い心がもてていると答えていました。理由としては、「前よりちょっと優しくなれたと思うから。」「いいときもあるけど、たまにガアアって怒ってしまうから。」などが挙がっていました。ついイライラしてしまいがちな現代ですが、やわらかく広い心をもっていたいものです。

道徳と関連して、以前、自主学習で子どもが書いてきた詩を紹介します。2学期に入ってすぐくらいの道徳で「ありがとう上手に」という話を読んで、自分の生活を振り返ったことがあります。そのときに、「ありがとう」の反対は「あたりまえ」という話をしたのですが、それを覚えていてくれるんだなあとうれしかったです。そして何よりこういうふうと考えられる心がすてきだなと思います。何が望ましい行動なのかということは、この学年にもなればだいたい分かってくるものです。でも、大人でもそうですが、いつも正しく、理想通りには生きられるものではありません。だから道徳の時間やふとしたときに「ああ、やっぱりこういうことって大切だよな」と思い返したり、

「かんしゃ」
ありがとう
その声ですくわれる人がいる
あたりまえ
その声できずつけてしまう人がいる
やってあたりまえなんかない
一人一人がやってくれていることにかんしゃ
ささいなことでもね!

友達の考えにふれて「そんな考えもあるんだな」と多様な見方ができるようになったりしてほしいなあと思います。

劇の練習をがんばっています♪

先日、予行が行われました。5・6年生は係の仕事や会場の準備もがんばりました。他の学年の劇を見るのは初めてだったので、楽しく観劇しました♪自分たちが演じる側になると、緊張した様子もありましたが、終わった後は満足そうな表情をしていました。少人数のため、1人の台詞数がとても多く、練習を始めた頃は「覚えられんかもしれん…」と言って不安がっていた5・6年生でしたが、堂々と演技をしていました。ですが、うまくいかなかったと反省している部分やまだ台詞を覚え切れていない部分もあるようです。当日まで、よりよいものになるようにさらに練習に励みたいと思います。どうぞお楽しみに♪

